

# 至徳

射水市立金山小学校 学校だより



令和3年12月13日

第16号

## 学校へ行ってみようデー

11月26日（金）、「学校へ行ってみようデー」の半日学習公開に来校してくださり、ありがとうございました。これまでの保護者の方に囲まれてちょっと気を張りながら学習をしている学習参観とは違って、普段の授業の様子を見ていただけたのではないかと思います。当日は、県総合教育センター、金山里山の会の方々をゲストティーチャーとして迎えての出前授業もしていただきました。教育センターの方には、低学年の生活科での「飛行機作り」を、中学年では「噴水遊び」の授業で理科的探究心をくすぐってもらいました。里山の会の方には、5年生に「シイタケの菌床作り」の実技を通して、地元のよさを伝えてもらいました。

授業では、子供と先生との言葉のやりとりが聞かれ、出前授業では、子供たちの驚きの表情やできた満足気な様子が見られました。保護者の方は分散しての来校なので、通常の学習参観よりも賑わいは少ないはずなのに、子供たちの楽しそうに学習している様子によって、何となく華やいだ感じがしました。

学習公開が終わった午後には、高学年が「ぼんぼん蒸気船」、放課後には教師が「動物の体のつくり」について、教育センターの方の授業を受けました。子供たちにとっても教師にとっても学びの一日でした。



## 台湾の小学校との交流

12月1日（水）、3・4年生が、台湾の台北市にある士林国民小学校の3～6年生とのオンライン交流を行いました。射水市と台北市は2019年より友好交流をしています。その

縁により今回の小学校間での交流が実現しました。

交流では、まず両校の校長が挨拶をし、次に士林国民小学校の武術サークルの演武を鑑賞しました。台湾語については、地域おこし協力隊国際交流コーディネーターの陳さんが通訳をしてくださいました。

その後、両校の子供たちがモニターを通して英語で会話をしました。ところどころ先生に助けてもらいながらも、これまで学習してきた英語を生かし、会話を楽しんでいました。

新型コロナウイルス感染症が拡大していたことで、いろいろな行事が縮小、または中止となりましたが、形を変えて、先月は渋谷区の猿楽小学校と、今回は海を隔てた異国の士林国民小学校と交流することができました。二つの交流は地方都市にある本校の子供たちにとって、「都会・海外の文化を知る」「互いの共通点を感じる」「射水市のよさを感じる」などのことから、視野を広げるよい機会になりました。今回の交流を終えて聞かれた「面白かった」「台湾へ行きたくなった」という感想は、正にその証でしょう。

これからは、リモート（インターネット等のネットワークを利用した環境）の活用により、各国の距離が縮まり、他国の人も気軽に話ができる時代になっていくことが予想されます。「リモートを活用し、他国の人と、英語で会話」をした今回の経験は、今後の素地となり、先駆けとなるものであったと思っています。



## 冬のよさを感じてほしい

12月も半ばとなり、年の瀬も近付いてきました。この時期になると、街はクリスマス飾りに彩られ、とても華やぎます。子供たちもこの雰囲気を楽しんでいることでしょう。

年末の風物詩となった感のあるクリスマス。確かに華やいだ雰囲気は明るい気分にしてくれるのですが、この時期に限ってはいろいろな事が「クリスマスに一点集中」してしまう傾向があります。広告やイベント等、「クリスマス〇〇」となっているのをよく見かけませんか。これにより、他面での冬のよさを感じにくくなっているような気がします。

本校の掲示板には、クリスマス色はありません。サンタさんも登場しません。本の紹介コーナーでも同じです。そこには、クリスマスで華やぐ雰囲気を感じる一方で、落ち着いた物事を考えたり、雪が作り出す世界を鑑賞したりするなど、違う方向からの冬のよさを感じて欲しいという願いが込められているのです。



〔校長室前掲示〕

詩：丸山薫「雪がつもる」



〔図書室前掲示〕

本の紹介：「銀河鉄道の夜」「あかり」「静かな魔女」等

